

科目名 (英語表記)	歴史学(History)						ポートフォリオ
学年・学科	専攻科1年・全専攻		単位・期間	選択2単位・前期(合計30時間) (自己学習時間60時間)			<学生が記入する上での注意事項>
担当教員	田村理恵	連絡先	管理棟2階 田村研究室	オフィスアワー	月曜 16:20～		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。
【授業目的】 ある地域の歴史及び文化を説明するためには、他の地域との比較が必要である。そこで、本講義ではイギリスを比較対象地域として取り上げ、日本及び九州と比較することで、双方の特色をとらえ、表現できるようにする。国あるいは地域には、独自の歴史とそれに基づく文化があることを理解する。				【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。			
【履修上の注意】 1) 自分でノートをしっかり取ること。 2) 提出期限は守ること。 3) 自分の住んでいる地域、および世界に関心をもつこと。				【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。			
【事前に行う準備学習や自己学習】 1) 事前に2年生で行った総合社会Ⅱの復習をしておくこと。4年で歴史学概論を履修したものはそれも復習しておくこと。 2) 自己学習として、毎回必ず復習を行い、基本的な語句と地理を確認すること。これに関して、簡単な提出物を課す。 3) 時事問題と歴史の関連を重視するので新聞に目を通し、授業で扱う問題との関連を常に意識することが必要である。				【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。			
【達成目標】 1) 自分の住んでいる地域の特色を歴史的観点から説明できる。 2) 他の地域、この授業ではイギリスの歴史を尊重し関心をもつことで、国際的感覚を養成する。 3) 自分なりの視点で異なる歴史を比較し、自分の考えを述べる。				ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。 <教員が記入する上での注意事項> 教員は、◎が付いているところだけを記入すること			
学 習 到 達 目 標							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 (A)	標準的な到達レベルの目安 (B)	未到達レベルの目安 (C)		ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。		
評価到達目標項目1	自分の住んでいる地域の特色を歴史的経緯から説明でき、他の地域との比較ができる。	地域の特性とその要因となった歴史的事項が結びついている。	九州の基本的な特色が分かる。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
評価到達目標項目2	地域や国によって考え方は異なっており、それが歴史的に形成されてきたこと、相互理解が必要であることを理解し、他の地域へも応用できる。	イギリスの特色が歴史的経緯から説明できることを理解する。	イギリスの特色を形成している基本的な考え方が分かる。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
評価到達目標項目3	異なる時代、国を比較することで、その地域の特性が明確になることを理解する。また、実際に自分の視点から異なる地域を比較し、自分の意見を述べるができる。	自分なりの視点で、異なる国や地域の歴史を記述することができる。	基本的な歴史用語が分かり、異なる地域や時代であっても比較できることを理解する。		【自己評価】 A ・ B ・ C		
					【自己評価】 A ・ B ・ C		
到 達 度 評 価 (%)							
評価方法 指標と評価割合	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	60		25			15	100
知識の基本的な理解	45		15			12	72
思考・推論・創造への適応力	15		8				23
汎用的技能							
態度・志向性(人間力)			2			3	5
総合的な学習経験と創造的思考力							
成績の評価方法について ・ 前期中間試験(30%) 学年末試験(30%) レポート(25%) 課題提出物(15%) で評価する。 評価基準について ・ 60点以上を合格とする。							
【教科書】 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。							
【参考資料】							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】 (a)			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(C)			

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授 業 要 目	内 容	時 間	
授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明	1	
序 暦、歴史区分、地域区分	世界には様々な文化がある。それは自然条件によって分布の範囲が異なり地域区分が行われる。それぞれの文化で特徴的な暦を見て時間のとらえ方の違いを知る。	1	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
1 日本			
1 古代の九州	我々が暮らしている九州の古代の歴史を概観するなかで、中央と地方との関係を考察する。特に九州の人々の「国」のとらえ方を考える。	6	
2 中世から近代の九州	九州には独自の文化がある。その文化を考察するとともに、大宰府や博多の特殊性を理解する。日本においては都市がどのような役割を持っていたのかを考察する。さらに、歴史の中で行政区がどう変わったのかを南九州を中心に見ていき、その歴史的背景をさぐる。	5	
3 「日本人」意識	日本人の「民族」「国」「地方」に関する考え方の特質を理解する。	3	
前期中間試験		1	【試験の結果】 試験の点数()
試験答案の返却及び解説		1	
2 イギリス			【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
1 中世の都市	日本の都市とは全く異なるイギリスの都市内部での市政府のあり方や、市民の生活などをみていく。	4	
2 都市と王権	イギリスでは、日本と異なり多くの「自治都市」が現れた。市民は自治を求め独自の政治文化を築いていく。こうした都市の成立過程を、王権と都市や市民の関わりを中心にみていくなかで、イギリスの人々の「国」の捉え方を日本と比較する。	4	
3 「民族」意識と地域	イギリスは四つの「地方」に分けられ、それぞれの地域への帰属意識が人々の中にある。イギリスの人々の「地方」と「国」への捉え方を概観し、その歴史的変遷や日本との違いを考える。	3	
前期末試験		(1)	【試験の結果】 試験の点数()
試験答案の返却及び解説	試験問題とレポートの解説及びポートフォリオの記入	1	
	合計時間	30	【総合達成度】 総合評価の点数()
【備考】			【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)